

令和 2 年 1 2 月 2 4 日

第 25 期の分野別委員会、分科会等の活動について（お願い）

幹事会

令和 2 年 1 2 月 1 6 日に公表した「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（中間報告）」で、日本学術会議の活動の自主的な見直しと改革の方向性を示しています。そこでは「1 科学的助言機能の強化」を謳っており、各種重要課題に対する、中長期的視点と俯瞰的視野、学術分野横断的な審議の実施を強調しています。また「2 対話を通じた情報発信力の強化」では、日本学術会議が発出する提言等について、政府や学協会、社会との間の双方向性のコミュニケーションを図ることの重要性も指摘しています。また、先日実施した会員アンケートでも、多くの会員から同様の指摘を受けています。

つきましては、今期の分野別委員会、分科会等の活動をより社会の負託に応えたものとするために、これまでの活動を振り返り、現状と今後の活動の在り方について見直しの作業を行っていただきたいと思えます。その際、以下の観点を基軸とした検討をお願いいたします。

また、検討の際には、ぜひ、「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（中間報告）」をご一読くださいますようお願いいたします。

1. 人類的、社会的課題としての重要性を備えたテーマを対象とした審議になっているか
三部制のメリットをいかして、分野横断的な議論を促すものとなっているか
2. 日本の学術の振興の観点から行う審議の場合、学協会との連携がいかされたものになっているか
学協会での議論で代替可能なものになっていないか
3. 分科会の活動内容は、上記 1、2 の観点から見て適切なものとなっているか
4. 読者を想定した審議と提言等になっているか
5. 提言等を社会に発信する際の方策について、具体的に検討しているか

（以下略）